

大リーグの野球—2

イチローが「10年連続シーズン200本安打記録」を達成した。まさに前人未到の記録で、200本以上を10回記録したのはピート・ローズのみである。しかし2~3年おきのもので、「連続」は3年のみであった。これはすごい記録である。あるいは当分の間破られないだろう。イチローがシスラーのシーズン安打記録を破ったときにそうだったように、はるか数十年前の記録として忘れられた頃に資料をひっくりかえして気がつく、といったようなものである。

たしかにピート・ローズのようにヤッカミ半分で、内野安打が27~28%あるではないかという意見もあるのだが、実際にはそれほど多くはない。当然ながらルールに則ってのものだし、またバッターランナーがイチローだから敵の投手や内野手があわてふためくことがほとんどであるようだ。いかにイチローが俊足であるかがわかっていいのではないか。

ましてや、4000本以上の最多安打記録を持ちながら野球賭博に手を染めていまもって野球殿堂入りができない選手のことだから、まあ誰も相手にはしない。・・・このあたり他の伝説の大リーガーなどと比較すべきもない。野球を汚した男である。・・・「人格はとも

かく」というのは野村の選手としての凄さや監督（指導者）としての凄さをほめるときに使うのであるが、ピート・ローズは選手としては超一流であり、タイ・カップの終身安打記録も破っている。もはやイチローはというより **200 本安打** というのは、そのレベルの選手の話題であって、イチロー自身が言うように「簡単じゃないことはボクが一番よく知っている。」

ここで一言。「**日米通算 3500 安打**」という表現は間違っている。個人としては **3500 安打** というのはたしかに優れた選手であることの証明であるが、たとえば **4000 本** をはるかに超えてピート・ローズの記録 (**4256 本**) を破ったとしても、世界記録としてあるいは大リーグ記録とはならないだろうし、米国民は認めないはずである。なぜなら、日本での記録はあくまで参考記録であり、同じレベルとは考えないだろう。これには賛成である。・・・その理由は明らかである。日本では一流とか言われ、数億円の年俸をもらっていた選手が大挙して大リーグ入りしたが、イチロー以外は「並か並以下」と以前に書いたけれども、これは書きすぎで「**イチロー以外は全員並以下**」が正しい表現である。彼我の力の差は歴然としている。そのレベルの低い日本での記録を公式記録として残すはずがない。

ではイチローが日本でだけ活躍していたら現在の記録を残せたかどうか？ 「どうせ打たれるくらいならぶつけてしまえ！」と死球ばかり増えていたかもしれない。監督の広岡や東尾・上田・三原のみならず、スペンサーに打たれるのがいやだからと敬遠四球ばかりの小山など、みっともない連中のために死球でつぶされていた可能性もある。だからイチローは大リーグに行って正解中の正解だったのである。(大リーグでは、故意でなくてもデッド・ボールに対して味方の主砲が報復される。また報復しないと味方から嫌われる。)

逆に大リーグの記録を日本にあてはめるのは認められるであろう。王選手のホームラン記録を**世界記録**と強弁する連中がいる（マスメディア；新聞記者も当然含まれる）のだが、人種差別で大リーグに参加させてもらえなかった黒人チームでのホームラン記録はベーブ・ルースの714本ごときではなく、同じ時代に900本をはるかに超えている。別にレベルが低かったのではない。(改めて書く。)だから王の記録もまた参考記録なのである。国民栄誉賞を否定はしないが、対象が大リーグだけというのはおかしい。このこともすでに書いた。しかも王は、賢明にもみずから世界一と称したことはない。

ピッチャーでも同じで、3年も経てば慣れてくるし、研究もされ

る。ほとんどの選手は3年で契約解除である。より長かった、つまり通用したのは村上、野茂、(松坂、岡島)くらいではないか。・・・阪神にいた投手など、名前は忘れたが、(あとから書いて卑怯じゃないか、と言うなかれ。当時からすでに思っていたので名前を出さなかっただけである。なぜなら日本で20勝しても、ここぞというときに抑えることができない選手では米国では通用しない。)大リーグどころか3Aでもしんどいのではないか。「ブームに乗って渡米した方がいいが、帰るに帰れず、途方に暮れているのではないか。」

イチローの記録を大騒ぎしているのは日本とすでに優勝という名誉から見離されているシアトルの野球ファンあるいはチームメイトだけかも知れない。あるいは現在活躍している大リーガーはわかっているはずだ。大きな理由としてはまず、**人種差別**がある。さらには、米国人の好みの野球スタイルがあることである。つまりホームランとかクロスプレー必至のライナーで右中間を抜く3塁打とかが好みであり、内野安打はあまり好まないようだ。・・・これも裏返せば足の速さを証明するものであるし、事実、内野安打はルール上認められている。ただ、日本のように1試合に3本以上打ったら猛打賞をもらえるとき、3本とも内野安打では「猛打」というのはちょ

っとなあ。だから彼らは Multi Hit と表現している。

イチローに関して、ボクが「掛け値なしの超一流」だと感じる 2 つ目は、その守備力である。俗に攻走守三拍子揃った好選手というが、攻は打撃であるが、走は盗塁のみならず守備範囲の広さも意味する。ホームランになるボールをフェンスからひきずるようにライトフライにしてしまう。さらにつけくわえたいのは肩の強さである。かなり必死で走った後にボールをとらえ、速球でかつサードやホームに精確に投げる能力というのは教えてもできるものではない。イチローのプレーを放映していたときアナウンサーがレーザー・ビームと叫んだ。Rifle Arm（無理に訳せば「鉄砲肩」）と呼ばれたウィリー・メイズを髣髴させるものがある。日本では誰だろう？ 昔広島カープにいた平山くらいだろうか。（あとさがせばいるだろうが、これを書いている今思い出さないし、資料をさがす気力もない。）

日本のマスメディアも表に現れてくる現象や数字などのみを追わずに、その背景にも配慮すべきだろう。そういうことを考えて記事を書かないから、仮にその記事が事実であっても信用がなくなってしまうのである。

2010.09.25.